デマンドバス

利用できる地域の拡大を

入野周辺で来年１月開始予定

宮地 葉子 議員

問 住み慣れた地域で暮らし続けるためには、交通対策が欠かせない。

高齢化が進む現在、住民からデマンドバスが走る地域を増やして欲しいとの要望が多くあるが、町の対応を伺う。

答 **渡辺 企画調整室長**

デマンドバスは現在、北郷加持エリアとかきせエリアで運行中だが、両エリアとも午前中の早い便は利用者が比較的多いが、日中から夕方は少ない状況にある。この利用者が少ない時間帯に入野周辺を運行する計画をしている。

今後、バス2台の買い換えを予定しており、AI（人工知能）を用いた予約システムの導入を計画中。

予約をすると走るルートや迎えの時間を自動計算するため、運行エリアの拡大も可能。利便性の向上で利用者増を図りたい。

今後、利用者への説明会や使い方教室などを計画しており、年明け1月を目処に準備している。

人権課題

同和問題も全体の中で解決を

町の人権施策に基づき実施

問 部落差別の解決は完全になくなる事ではない。格差と分断がある世の中だから、どんな差別でもゼロになることはない。住民の交流が進み、周りにこだわりが無くなり、そんなことをやったらダメだという声が多くなれば基本的に解決だ。

部落差別は数十年前と比べると格段に解消されたと思うがどうか。

答 **松本 町長**

同対審答申が出てから政策が進み、当時の厳しい差別から見ると、だんだん良くなっていると思う。実態的差別は、ほぼ解消されたが、心理的差別が、まだ、あり課題として残っている。

問 どんな差別も、いけないと分かっていても気持ちが残っている。だから解放子ども会や児童館のように他の地域と違い予算も内容も特別扱いを続けていると、逆差別的な意識が無くならず、新たな差別を生みかねない。

差別解消への道は、個人の尊厳をいかに大事にするか、全体の人権意識の向上をはかり、部落問題も全体の中の一つとして解決する事だと思う。

町は、すでにその道を歩んでいる。「泊まり合い」を止め、人権課題全体をテーブルにのせ、話し合う事業になった。

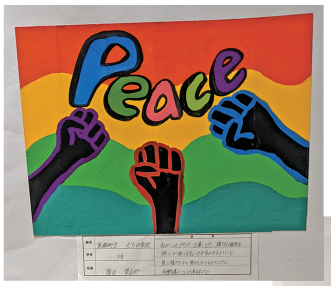
また、子どもたちの「人権作品」にも、人権＝差別ではなく包括的な作品が多数あった。

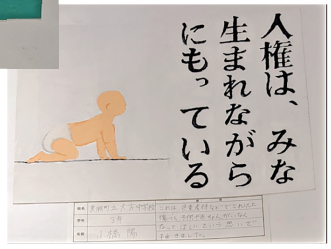
町も、主体性を持って部落差別を特化せず、みんなの人権や民主主義を高めていく差別解消の方法をさらに進めて欲しいが、どうか。

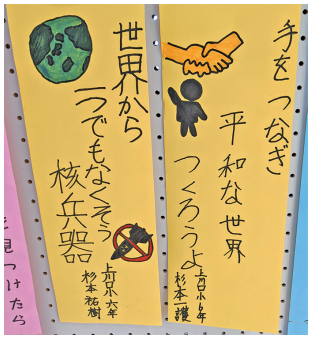
答 **岡本 教育次長**

町は全ての人の人権が尊重される人権文化の町づくりをめざして、人権施策推進の基本方針を実施し、取組みを進めている。

同和問題も取り組むべき一つの人権課題として捉えており、それぞれの特性に沿って必要な啓発、教育に取り組んでいる。







子どもたちの「人権作品」
くろしおホールにて
（令和６年９月下旬）